

【特別支援学校用】

令和6年度学校評価 計画

様式1(特別支援学校)

達成度(評価)

- A: 十分達成できている
- B: おおむね達成できている
- C: やや不十分である
- D: 不十分である

学校名 佐賀県立伊万里特別支援学校

1 前年度 評価結果の概要
 ・取組内容8項目のうち、最終結果でのAは6項目、Bは2項目であった。目指したところの達成はできているかと思われる。Bの評価をつけた「効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実」については、年度当初の説明と途中の研修だけでなく、啓発活動とともに、より多くの職員が関わるような取り組みを行っていく必要があると思われる。また、「業務効率化の推進と時間外在校時間の削減」についてもあらゆる手立てを構築し、取り組みを継続していく必要がある。
 ・次年度も現在の取り組みを継続しながらよりよい学校生活の提供、職員の専門性の向上を図ってきたい。

2 学校教育目標 将来の社会生活を見据え、自立を目指して児童生徒個々の特性に応じた教育を行う。

- 3 本年度の重点目標
- ① 児童生徒の特性と教育的ニーズの把握に努め、個に応じた教育計画・実践の充実を図る。
 - ② 健康・安全教育の充実を図り、安全・安心な教育環境を整備する。
 - ③ 進路指導の充実にも努め、キャリア教育の実践を積み重ねて卒業後の自立的な社会生活をを目指す。
 - ④ 児童生徒の主体性を尊重し、「明るく」「素直に」「元氣よく」「たくましく」生きる力を育む。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による自立を目指す力の定着	○自分の子どもにできることが増えたと感じる保護者75%以上を目指す。 ○本校の学校教育目標やめざす子ども像を踏まえ、日々の教育に生かすことができた回答する教職員80%以上を目指す。 ○「特別支援教育の専門性が向上した」と回答する教職員80%以上を目指す。	・一人一人の特性を丁寧に見取り、適切な指導・支援を行う。 ・年度当初に、学校全体で柱になることを知る機会をもち、日々の学習活動に取り入れ実践していく。 ・個別的教育計画の研修会や校内研究、自立活動の研修等を通して理解を深め、日々の教育活動に取り入れていくように、担当する分掌で啓発、推進を行う。			
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○安全、安心で楽しいと感じる学校生活を提供できていると回答する教職員85%以上を目指す。 ○児童生徒が進んで登校し学校を楽しんでいると回答する保護者80%以上を目指す。	・児童生徒が楽しく充実した学校生活を送るよう、研修会や職員同士の学びを通して授業の改善、学校生活の改善に努めていく。 ・児童生徒と職員の信頼関係を構築し、安心して関わることのできる雰囲気を作る。							生徒指導部 各学部主事
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取り組みの充実	○いじめの基本方針の確認や研修会を実施していじめの定義等を再確認し、早期発見、早期対応ができるように努める。 ○年2回のアンケート調査を行い問題の早期発見を目指す。 ○保護者とともに連携して、いじめやトラブルを見逃さない体制づくりを推進していると回答する教職員85%以上を目指す。	・児童生徒の変化を見逃さないようにする。 ・学級活動や生徒会活動、および職員朝礼や会議等で啓発を行い、学校全体でいじめ防止への雰囲気づくりに取り組む。 ・委員会だけでなく、各学部でも弾力的に対応することで早期の発見、解決を図る。 ・児童生徒からの発信を見逃さないように丁寧に心身両面の把握をする。							生徒指導部
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○児童生徒一人一人の良さを発見し、意欲的に学校生活に取り組めるよう支援を行った「ほめて、育てた」と回答する教職員80%以上を目指す。 ○児童生徒一人一人が、「やってみよう」と意欲的に授業に取り組むことが実感できるような授業づくりができた回答する教職員80%以上を目指す。	・各学部におけるめざす子ども像を明確にし、実態に応じた一人一人が達成できる目標を設定して授業実践を行う。 ・授業改善のために各学部で研究授業や事例研究会等を年3回以上実施する。 ・目標や評価についての研修を年3回以上実施し生徒支援の改善を協力して行っている。							教務部 各学部主事
●健康・体づくり	◎「望ましい生活習慣の形成」 ●健康的な学校生活の提供	○規則正しい学校生活が提供できたと回答する教職員80%以上を目指す。 ○健康に過ごせたと回答する保護者80%以上を目指す。	・見通しの持ちやすい週日課表を作成し、毎日同じ流れになる生活を提供する。 ・児童生徒が健康診断等をスムーズに受診できるように、担任と協力して適切な手立てをとることで、疾病等の早期発見、治療へつなげる。 ・保護者と連携して児童生徒の体調管理を行う。							保健安全部
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○センター的機能について職員の意識を高め、何らかの役割を果たしていると70%以上の教職員が答えられることを目指す。 ○地域のコーディネーター対象の研修会を年2回開催する。	・職員にセンター的機能の理解を進めるよう機会あるごとに紹介したり学習の機会を提供したりする。 ・地域のコーディネーターに向けた研修会を年2回計画し、案内をする。							相談支援部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○事務的作業の効率化など働き方改革について自覚する。 ○月時間外在校時間45時間超過者について全体の6%以下を目指す。	・管理職による呼びかけの継続と定時退勤推進デー等の設定 ・分掌業務の精選と役割分担の見直し。 ・学校の資産(保有している教材や物品)の積極的活用および人材の活用。 ・会議への参加者の絞り込みや弾力的運用。 ・事務的作業時間確保のための授業時間割等の見直し。							管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○進路指導とキャリア教育の充実	○児童生徒及び保護者ならびに学校職員が、将来の自立と社会参加を意識して学校生活に取り組むために必要な、進路指導・支援とキャリア教育に関する情報や研修の提供	○児童・生徒の将来の自立と社会参加を意識して指導・支援をしていると回答する職員が80%以上を目指す。 ○将来を考慮するための情報提供がなされていると回答する保護者が80%以上を目指す。	・自立と社会参加を意識して一人一人に応じた教育実践を行う。児童生徒に身につけさせたいことを個別的教育計画や授業計画の中に明確にして支援にあたる。 ・本人、保護者が将来を描けるような説明会の機会を設ける。また、教職員のニーズに応じた進路研修を企画・運営する。 ・進路指導への取り組みを資料やホームページを活用して周知し理解を広げる。			

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望